

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 7月 3日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|------------------|-----------------------|--|
| 事業所番号 | 4075800419 | | |
| 法人名 | サンコーケアライフ株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム けやき | | |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県嘉麻市鴨生 94 - 19 | (電話) 0948 - 42 - 7578 | |

| | | | |
|-------|----------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アトル | | |
| 所在地 | 福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年6月26日 | 評価確定日 | 平成20年7月10日 |

【情報提供票より】(20年 5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 平成 16年 11月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット |
| 職員数 | 18 人 |
| 利用定員数計 | 18 人 |
| 常勤 | 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 15.2人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|---|---|
| 建物形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 併設 / 単独 | <input checked="" type="checkbox"/> 新築 / 改築 |
| 建物構造 | 鉄筋 造り | |
| | 1 階建ての | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------|---------------------------------------|-------|----------|
| 家賃(平均月額) | 26,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有(円) | <input checked="" type="checkbox"/> 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 230 円 | 昼食 | 430 円 |
| | 夕食 | 440 円 | おやつ | 夕食代に含む 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(5月31日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 16 名 |
| 要介護 1 | 4 名 | 要介護 2 | 6 名 | | |
| 要介護 3 | 5 名 | 要介護 4 | 3 名 | | |
| 要介護 5 | 名 | 要支援 2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 87.6 歳 | 最低 | 77 歳 | 最高 | 94 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------------|
| 協力医療機関名 | 社会保険稲築病院、西野病院、田川慈恵病院、有吉歯科 |
|---------|---------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「入居者第一」という理念のもと、入居者が「ここに来てよかった」と思えるグループホームに向けて日々取り組んでいる。ホームと併設して、同法人のデイサービスセンターや有料老人ホームがあり、行事やレクリエーションと一緒に楽しむことができる環境にある。また地域との交流も多く、地域に出掛けていくことは元より、ホームに向いて来てもらう機会も多い。ホーム内のレクリエーションでは、貼絵や紙粘土細工等行われており、利用者が作成したものが至るところに飾られ、ホーム内を明るい雰囲気へと導いている。また外には広い畑もあり、畑仕事を楽しむ利用者もいる。調査当日の昼食にも、実際に畑で収穫したジャガイモが使われた料理が出され、それについての会話が行われながら楽しい昼食の時間を過ごされていた。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の改善点については、日常生活自立支援事業等の制度の理解、職員を育てる取り組み、同業者との交流の部分であったが、評価後にみんなで話し合いを行いながら改善に向けた取り組みを行ってきた。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 職員全員で意見を出し合ったものを、管理者が最終的にまとめて作成した。また前回の改善事項についても順次改善を行っている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 2ヶ月に1回、市の職員をはじめ、地域包括支援センターの職員、市議会議員、民生委員、利用者の家族等が出席し開催している。会議では地域のことを報告してもらったり、ホームに対するアドバイス等してもらったりすることもある。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) |
| | 2ヶ月に1回、家族会を開催しており、その時に要望や意見を出される。その時出された意見については、後日職員間で話しをしながら改善に向けて取り組んでいる。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域の行事に参加したり、地域の方をホームの行事に招いたり、地域の人たちとの交流の場は多い。またボランティアや中学生の体験学習等の受け入れも積極的に行っている。 |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------|----|--|---|-------|----------------------------------|
| .理念に基づく運営 | | | | | |
| 1.理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている | 「入居者第一」ということを一番に掲げ、また、地域にも開かれたホームを目指すことも盛り込んで、理念を作成している。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員に対して、管理者は常に「入居者第一」ということを伝えている。利用者が「ここにきてよかった」と思ってくれるようなホームになるように、日々取り組んでいる。 | | |
| 2.地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の行事に参加したり、地域の方をホームの行事に招いたり、地域の人たちとの交流の場は多い。またボランティアや中学生の体験学習等の受け入れも積極的に行っている。 | | |
| 3.理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者が作成した自己評価表をたたき台にして、職員がそれぞれ目を通して意見を出し合い、最終的な自己評価表を作り上げた。前回の外部評価の結果についてもみんなで話し合いを行い、改善に向けて取り組んできた。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、市の職員をはじめ、地域包括の職員、市議会議員、民生委員、また利用者の家族等が出席し開催している。会議では、地域のことを報告してもらったり、ホームに対するアドバイス等をしてもらったりすることもある。 | | |

グループホーム けやき

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の窓口には頻繁に足を運んでおり、担当者との連携は取れている。また市から派遣される介護相談員の受け入れもしている。 | | |
| 7 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 前年の評価で改善項目であったが、その後、資料を基に職員がそれぞれ勉強したり、管理者が制度についての話しをしたりしながら、制度についての知識を深めている。 | | |
| 4.理念を实践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 2ヶ月に1回、ホーム便りを作成している。また毎月の請求書送付時に簡単な報告も付けている。また何かあった場合には、その都度電話等で報告をするようにしている。 | | |
| 9 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 2ヶ月に1回、家族会を開催しており、その時に要望や意見を出される。その時出された意見については、後日職員間で話しをしながら、改善に向けて取り組んでいる。 | | |
| 10 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 極力異動は行わないようにしている。退職等により職員が入れ替わる時には、必ず1ヶ月程度引継ぎの期間を設けて、利用者のダメージを最小限に留めることができるように配慮している。 | | |

グループホーム けやき

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| 5.人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | <p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p> | <p>職員の採用にあたっては、その人本人のやる気や人間性を重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。</p> | | |
| 12 | 20 | <p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p> | <p>人権教育については、ミーティングや日々の業務の中で実践に基づいた形で話しをするようにしている。</p> | | |
| 13 | 21 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>グループホーム協議会の勉強会をはじめ、外部研修には積極的に参加している。職員が交代で参加し、ホーム内で伝達講習を行い、情報の共有を図っている。また内部研修については、現在研修計画を作成しており、今後積極的に取り組んでいく方向である。</p> | | |
| 14 | 22 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>グループホーム協議会に入会しており、2ヶ月に1回程度、集まりがあるので、そこで他のグループホームの職員との交流を持つことができる。最近、町内のグループホームとのつながりもできてきて、お互いのホームを行き来し合ったりしながら交流を深めている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>事前に見学に来られた上で入居を決定しているが、利用者は認知症もあって、なかなか簡単には馴染めないことが多い為、入居当初は家族の協力を得ながら、家とホームを行き来しながら、徐々に馴染んでもらえるように働きかけを行うようにしている。</p> | | |
| 2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p> | <p>本人本位ということと大事にし、何にでも手を出すのではなく、出来ることはやってもらったり、逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1.一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>出来る限り希望や意向を聞いて、出来る範囲でそれを叶えることができるように努めている。意向の把握が困難な利用者もいるが、センター方式等を用いながら、本人の意向の把握に努めている。</p> | | |
| 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>会議の時に計画のたたき台を見ながら、職員が意見を出し合う。その後修正をかけながら最終的な計画を作成するようにしている。また家族の意向も取り入れて作成している。</p> | | |
| 19 | 39 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>3~4ヶ月に1回、見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにしている。</p> | | |

グループホーム けやき

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 3.多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、状況に合わせて支援している。受診の介助や買い物等、臨機応変に対応している。 | | |
| 4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診介助をすることもあるが、近隣の往診が可能な診療所との契約をしてもらっているケースもある。利用者と家族が選択された方法にて支援を行っている。 | | |
| 22 | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 段階に応じて本人や家族、かかりつけ医と話し合いながら、対応策を検討しているが、今のところホームでの終末期の対応は行っておらず、医療機関で対応してもらうこととしている。本人や家族にも、入居時にその旨説明しており理解してもらっている。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1.その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても事務所内の鍵がかかる棚で管理している。 | | |
| 24 | 54 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その人のペースに合わせて、決して無理強いはいしないように対応している。起床時間や就寝時間、食事の時間等もなるべくそれぞれの希望に沿うようにしている。 | | |

グループホーム けやき

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。 | | |
| 26 | 59 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 一応時間帯を決めてはいるが、利用者の状況や希望に合わせて臨機応変に対応している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者と一緒に歌を歌ったり畑仕事をしたり時には買い物に行く等、普段の楽しみごととしてそれぞれが好きなことを行うことができるように支援している。 | | |
| 28 | 63 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 出掛けるのが好きな利用者が多いこともあり散歩や買い物等、外出する機会も多い。出掛けた時には写真を撮って、それぞれのアルバムに綴じたりホーム内に掲示して、外出時の様子を家族にも見てもらえるようにしている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は一切鍵をかけないようにしており職員による見守りにて対応している。万が一外に出られることがあってもドアに鈴をつけているため、その音でわかるようになっている。 | | |
| 30 | 73 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に2回避難訓練を行っている。その際、夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。またホームの隣には有料老人ホームがあったり利用者の家族が消防団という人もおり地域や周辺の協力も得られる状態になっている。 | | |

グループホーム けやき

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は利用者の希望を聞きながらホームで立てるが、それを栄養士に見てもらい、栄養のバランスがよい食事となるように気をつけている。また、食事摂取量はチェック表にまとめておりそれぞれの状況の把握に努めている。 | | |
| 2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングは窓が大きくて明るく、ソファや食卓も一般の家庭で使用しているようなものが置かれておりゆったりと心地よく過ごせる空間づくりがなされている。またところどころに生花が飾られていて、季節を感じることもできる。 | | |
| 33 | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | それぞれの居室には、レクリエーションで作成したものや写真等を飾っていたりまた、それぞれの好みのものや使い慣れた家具が持ち込まれており居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。 | | |